

二一八

新編
古史
考索

卷一

外遊奇談卷之三



隱形奇術死因

西遊記に東郡老翁の孫は農家の子の生れ敏捷
めて其方の如く格闘の理と解と長ずるに及び其
文才も人より超えては親方からの修業の道に
なり格闘と名をせしむるは也然るに其父の
まゝにせり其父は市中に遊び多に其父の
相とんと曰ふに人あり其父の奇術を教へん
依は漢子事なる道に其父は其父の奇術を

外遊奇談

三〇一

人のるは其父の事なる一書とせしむるに其
一の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
二の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
三の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
四の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
五の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
六の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
七の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
八の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
九の事なる其父の事なる一書とせしむるに其
十の事なる其父の事なる一書とせしむるに其

うぐい涌き出石^{いし}壁^{かき}び^び屋^や筋^{すぢ}を^を木^き村^{むら}更^{さら}大^{だい}石^{いし}路^ろあり

の^ごう^ごく^ごあ^ごな^ごよ^ごろ^ごふ^ごる^ごと^ごあ^ごく^ごと^ごく^ごし^ごり^ごあ^ごり^ご候^ご

名の大橋も挽うぞ板うもて醜^{かん}く^と欠^とく^と村^{むら}志^し

つふ^{よひ}ゆ^きてと防^{かへ}ぎもゆるくもらぬと

は比加うとどろく衆動のぞも夜あきすもわうさふだ

一統いつとう之水みづ然しかがふふとつれ氣そふん軍ぐん此この理り也やを南みなみ也やと人

とろりめする今さう流る詞多^う彩^{いろ}く^く免^{めん}に^ん罪^{つみ}と^とあ^あうて

付新成海いふてまきふては船ひ水松をひひて

2 多ひあやまりぬ 我ふあう たふ 終る はる ときも 赤穂の あき 恥辱 うしろ とす

山松芳信
三ノ四
あつち
きんぎょ



山松芳信

三ノ三

かんぐあひく人とてきりやうとて置てく村をたふさんや
 ひうねの津流八坂の堤の傾斜するを堰ききり倒るあま
 いざうい我洲のめとてんせききり砂と鯛で水面を投を
 まぶしうや水流を減く大橋をさきり百姓をたふさ
 里昔のきりあふはひ村の力とてりてりてりてりてり
 也流をとてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 商人あふきりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 是より人の吹雪とてりてりてりてりてりてりてりてり
 延るはあれきりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

[illegible]

卷一

[illegible]



